

2023 年 9 月 8 日

The Emerging Markets Weekly

米景気の底堅さが新興国通貨の重しに

新興国市場:先週末 1 日、アジア時間の新興国通貨は小動き。中国人民銀行 (PBoC) が、銀行の外貨預金準備率の引き下げが発表したことや、不動産緩和対策が発表されたことが新興国通貨の支援材料に KRW が上昇した。欧米時間、米 8 月雇用統計の結果を受けて米金利は低下で反応、ドルも下落した。しかし、米 8 月 ISM 製造業景気指数が市場予想を上振れとことなどを受けて米金利が急反発、ドルも急伸したことで新興国通貨は下押された。RUB や MXN が軟調。一方、BRL は国内の良好な経済指標の結果を好感し上昇した。週初 5 日のアジア時間の新興国通貨は大半が小幅なレンジ内での動き。引き続き欧米金利が上昇したが、中国株式市場の堅調が下支えとなった。THB が下落。欧米時間は米国が休場だったため動意に欠けるなか、新興国通貨はまちまち。ZAR は前日比▲1.2%下落。他方、BRL は鉄鉱石価格の上昇を受けて上昇。5 日のアジア時間は、中国経済指標の冴えない結果や中国株式市場の軟調が重しに。KRW や THB が売られた。欧米時間、ユーロ圏 8 月 PMI の改定値が下方修正されたことや、米金利上昇を背景にドルの全面高となり新興国通貨は続落。MXN と RUB は前日比▲1.0%超値を下げた。6 日のアジア時間は PBoC が基準値を元安方向に設定し、新興国通貨は軟調となった。MYR の下落が目立った。欧米時間、米 8 月 ISM 非製造業景気指数が市場予想を上振れ、米金利上昇・ドル高となり、新興国通貨は続落。MXN や RUB が値を下げた。7 日のアジア時間の新興国通貨は、前日の流れが続き、KRW や THB が下落。欧米時間、ユーロ圏 4~6 月期実質 GDP 成長率が下方修正される一方、米経済指標は米労働市場の底堅さを示した。新興国通貨は大半が小幅な値動きでまちまち。BRL は休場だった。

アジア:1 日発表のインドネシア 8 月消費者物価指数 (CPI) は前年比+3.27%と 7 月から加速したが、市場予想は下振れた。シンガポール金融通貨庁 (MAS、中央銀行) は 4 日、2011 年から長官を務めたラビ・メノン氏が 12 月末に退任し、人材開発省のチャ・ダージウン氏を後任とすることを発表した。5 日、韓国 8 月 CPI は前年比+3.4%、フィリピン 8 月 CPI は前年比+5.3%、タイ 8 月 CPI は前年比+0.88%とそれぞれ市場予想を上振れた。7 日には中国 8 月貿易収支が公表され、+687 億ドルの黒字となった。輸出は前年比▲8.0%、輸入は同▲7.3%とそれぞれ市場予想よりマイナス幅を縮小した。マレーシア中央銀行 (BNM) は同日、政策金利を 2 会合連続で 3.00%に据え置くことを決定した。

中東欧・アフリカ:4 日発表のトルコ 8 月 CPI は前年比+58.94%と 7 月 (同+47.83%) から加速し、インフレの制御がきかない状況は続いている。

ラテンアメリカ:1 日に公表のブラジル 4~6 月期実質 GDP 成長率は前年比+3.4%と 1~3 月期 (同+4.0%) から鈍化したが、市場予想を (同+3.0%) を上振れた。10 四半期連続でプラスの成長を維持している。7 日、メキシコ 8 月 CPI は前年比+4.64%と市場予想を僅かに上振れた。

金融市場部
マーケット・エコノミスト

堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mhc.co.uk

市場概観(新興国)

製造業は中国主導で上昇も、継続性には疑問符

金融市場部
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

S&P Global 社が集計するグローバル購買担当者指数(PMI)によれば、8 月製造業 PMI は 49.0 と 7 月(48.6)からは上昇も、12 か月連続で中立水準(=50)を割り込んでおり、製造業の景況感は明確に下向きだ。先進国(47.1→46.8)は雇用や購買品在庫を中心に低下し、11 か月連続で中立水準割れを記録。片や、新興国(50.2→51.4)は雇用や新規受注を中心に上昇し、7 か月連続で中立水準超えを維持した(図表 1、2)。なお、新興国はウエイトの大きい中国の増勢に押し上げられており、それ以外で見ると強いという印象はない。また、グローバル非製造業 PMI(52.7→51.1)は 3 か月連続で続き低下。先進国(51.9→51.2)、新興国(54.5→53.1)いずれも前月から低下した。

これらを合わせたコンポジット PMI は 50.6 と前月(51.6)から 3 か月連続で低下も、7 か月連続で中立水準超えを維持。世界経済の実質 GDP 成長率は 4~6 月期はプラス成長を維持も、前四半期からは勢いを落とした(図表 3)。PMI の推移を確認する限り、足許かけては引き続き減速基調にあるものと考えたい。

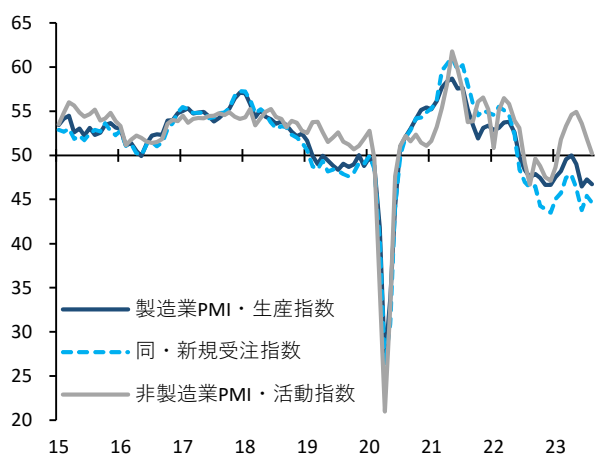
8 月グローバル製造業 PMI の特徴は、価格指数の下げ止まり感だろう(図表 4)。川上の仕入れ価格は 51.1 と 7 月の 49.3 から上昇し、4 か月ぶりに中立水準超えに回帰した。川下の出荷価格も、50.5 と 7 月の 49.7 から上昇、こちらも 4 か月ぶりに中立水準超えを記録している。もちろん、パンデミック後の騰勢に比べれば圧倒的に低い水準にとどまっているのでインフレ圧力の再燃とまではならないだろうが、底堅く推移する資源価格や、残存する賃金上昇圧力などが影響している公算が大きい。

製造業 PMI の構成指数別には、原材料在庫以外の 4 指数が製造業 PMI の上昇に寄与した。生産指数は、新興国の上昇がけん引し、全体を押し上げた(図表 5)。中でも、中国の上昇(49.2→51.6)が鮮明だ。新規受注も、新興国主導で改善が見られた(図表 6)。ただし、14 か月連続の中立水準割れは継続しており、短期の先行きは依然弱い状態が続いている。また、雇用指数も新興国(49.5→51.3)の上昇が効いた(図表 7)。他方、入荷遅延(逆インデックス)は先進国(54.7→52.8)主導で低下した(図表 8)。パンデミック後の供給政策改善には一服感があり、製造業の需給は緩和した状態にある。8 月に製造業 PMI は上昇も、主導したのは中国であり、それ以外の明確なけん引役は現状見当たらない。今後も増勢を維持するには、少々頼りないだろう。

個別の新興国では、タイ製造業 PMI の軟調さが目に付く。8 月には 48.9 と 7 月(50.7)から低下し、20 か月ぶりに中立水準割れを記録するなど急速に悪化していることがわかる。特に、新規受注(48.8→44.3)の悪化が顕著だ。もともと、新規輸出受注(51.2→51.3)は弱含んでいないことから、外需ではなく内需の下押し懸念が強いことがうかがえる。生産指数はいまだに大きく弱含んでいないが、今後受注が減っていけば、製造業活動は下押しを余儀なくされるだろう。観光業の復調次第ではあるが、同国経済は減速基調を続けそうだ。

(注)各国・地域別の PMI のグラフについては、9 月 7 日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1: 先進国



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 2: 新興国



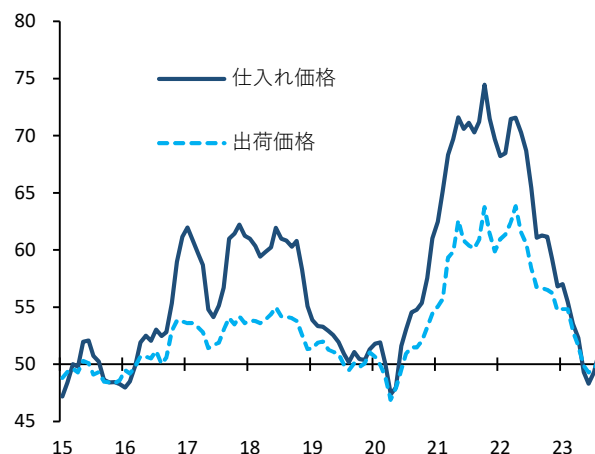
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 3: グローバルのコンポジット PMI と GDP 成長率



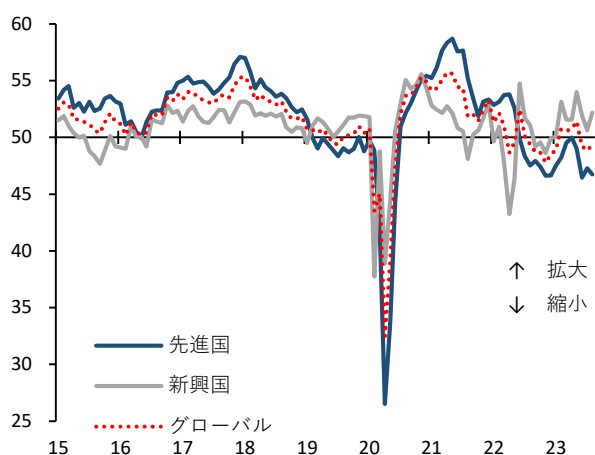
出所: S&P Global、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 製造業 PMI・価格指数



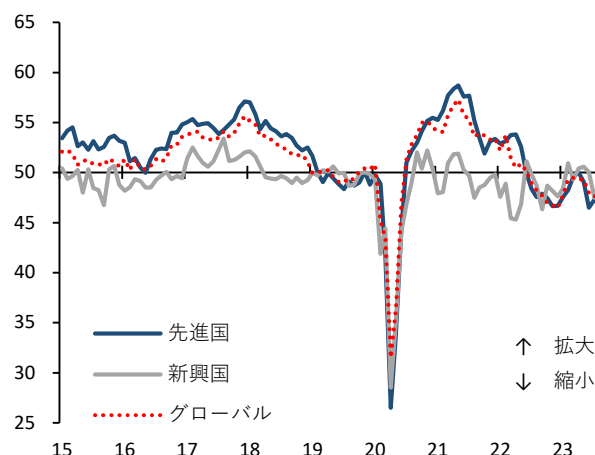
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 5: 製造業 PMI・生産指数



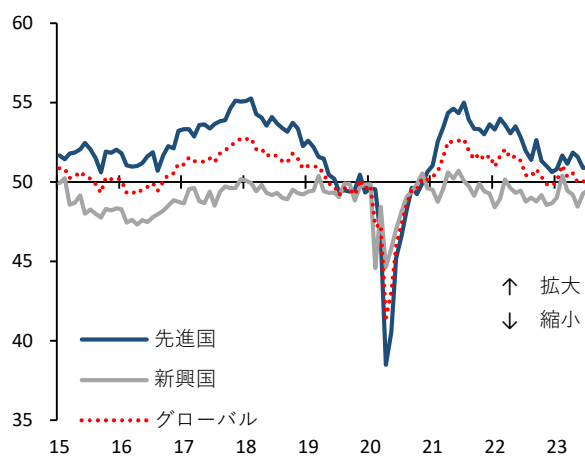
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 6: 製造業 PMI・新規受注指数



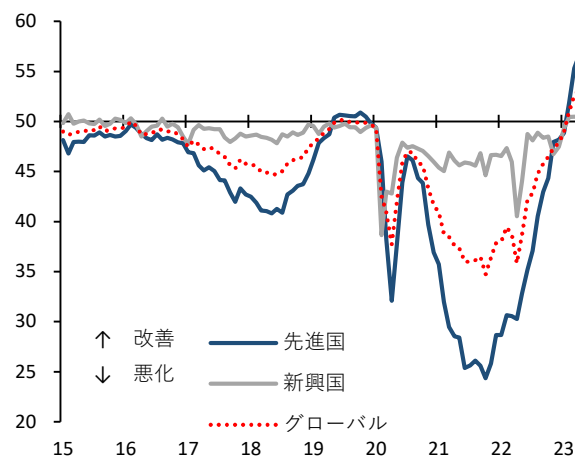
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 7: 製造業 PMI・雇用指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 8: 製造業 PMI・入荷遅延指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

市場概観(ポーランド)

市場予想を上回る▲75bp の大幅利下げで金融緩和を開始

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

サマリー

- ポーランド中銀は市場予想を大きく上回る▲75bp の利下げを実施。
- 市場予想を上回る大幅利下げ、金融政策が政治への配慮で歪められているのではないかという懸念、グラピンツキ総裁の記者会見で示された PLN 安リスクを容認する姿勢、これらの要因は PLN 相場にとって重大なダウンサイドリスクとなる。
- これまで PLN の 2023 年 12 月のユーロ相場の予想を 4.50 としてきたが、4.74 に PLN 安ユーロ高方向に改定した。その後もユーロ圏との金利差縮小のリスクを反映する形で PLN 安方向に修正している。

ポーランド国立銀行(NBP)は9月6日、▲75bpの利下げを行い、政策金利を6.00%に引き下げた。NBPの金融緩和は新型コロナの感染拡大で世界経済が混乱に見舞われていた2020年5月以来となる。今回の利下げは2重の意味でネガティブサプライズとなった。(1)グラピンツキ総裁は7月会合後の記者会見で「2023年9月会合での利下げ開始は可能」と明言し、利下げの条件の1つとして、消費者物価指数(CPI)の上昇率が1桁台となることを挙げていた。しかし、8月31日に公表された8月分のCPI速報値は前年同月比+10.1%となり、一桁には低下しなかった(図表1)。そのため、今会合では利下げが見送られるという見方も根強く、実際にブルームバーグ集計の民間エコノミスト予測では36名中16名が据え置きを予想していた。(2)さらに、利下げが行われると見ていたエコノミストも全員が利下げ幅は▲25bpになると予想していた。▲75bpの大幅利下げという想定外の結果を受け、利下げ発表直後にPLNは対ユーロで4.50から4.57まで▲2%近く下落した。

「景気減速に伴うインフレ圧力低下」というロジックには違和感

このように、2重のネガティブサプライズとなった今回の大幅利下げだが、NBPは金融政策発表の当日に公表した声明文の中で、景気の減速が想定以上に鮮明となっていることを主な理由として挙げている。8月31日にCPIと同時に発表された2023年4～6月期の実質GDP成長率は前年同期比▲0.6%と8月16日に公表された速報値の同▲0.5%から下方修正となった。速報値の時点では市場予想は同▲0.3%の落ち込みとなっていたことと比較してマイナス幅が大きく拡大した格好だ。需要項目別内訳を見ると家計消費が同▲2.7%、総資本形成が同▲14.3%と、消費と投資の両輪が共に大幅な落ち込みとなっている(図表2)。

たしかに、景気の減速は需要面からのインフレ圧力を低下させうるものの、釈然としない点が残る。(1)ポーランド政府は8月下旬にポーランド版の子供手当である「ファミリー+500」の拡充などを盛り込んだ財政拡張的な2024年予算案を承認したばかりである(図表3)。財政政策が拡張的となるなか、金融政策も緩和に舵を切るようであれば、国内景気回復を強力に後押しする形となり、「景気減速に伴うインフレ圧力低下」というロジックに矛盾が生じる。(2)ポーランドは、他の欧州主要国と同様に、景気が減速するなかでも依然として労働需給の逼迫は根強く、賃金上昇率は2023年

7 月時点で前年同月比+10.4%と高水準である(図表 4)。賃金とサービス価格のインフレスパイラルのリスクは高く、現時点での金融緩和はそれを助長しかねない。これらの点を考慮すれば、今回の大幅利下げが、10 月 15 日の総選挙の前に景気を支援するための政権への配慮なのではないかという野党指導者で元首相のトゥスク氏らの批判を否定することは難しいだろう。

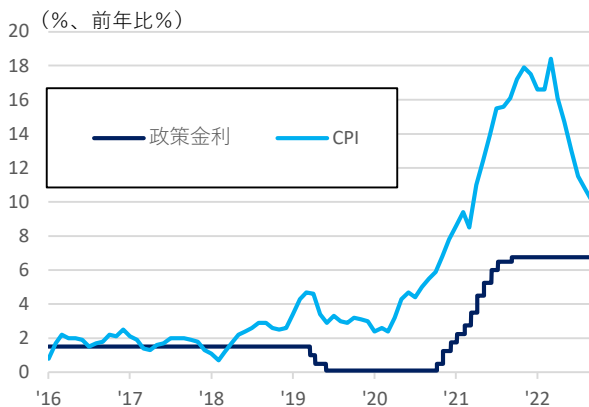
グラピンツキ総裁の記者会見の間に PLN は続落

グラピンツキ総裁は金融政策発表の 1 日後の 9 月 7 日に記者会見を行い、今回の大幅利下げの妥当性を強く主張している。「ポーランドは景気後退を招かずに CPI の引き下げを目指す」という発言は、現在、世界の中央銀行が直面している「景気後退を受け入れるかインフレ抑制を優先するか」のジレンマに照らして考えれば、現実離れた主張のように感じられる。為替市場の観点からは、総裁が大幅利下げ後の PLN の下落に対し、「▲2%の通貨安による CPI の押し上げ圧力は限定的」とし「為替介入を行うことはない」と意に介さない姿勢を示したことが注目される。結局、総裁の記者会見中に PLN は続落し、PLN は 9 月 7 日時点で金融政策発表前の水準からは対ユーロで▲3%下落した水準で推移している。総裁の記者会見のハト派的なトーンを考慮すれば、PLN に対する下落が一段と強まらない限り、次回 10 月 4 日の金融政策決定会合で追加利下げが実施される可能性は高い。

PLN への金利面のサポートは今後急激に失われる公算が大きい

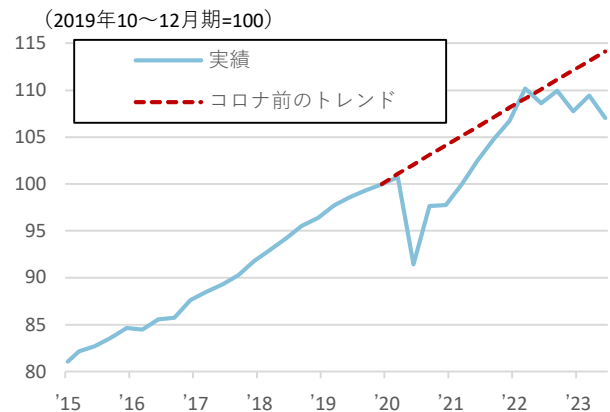
市場予想を上回る大幅利下げ、金融政策が政治への配慮で歪められているのではないかという懸念、総裁の記者会見で示された PLN 安リスクを容認する姿勢、これらの要因は PLN 相場にとって重大なダウンサイドリスクとなる。既に市場では 10 月会合での利下げを▲40bp 織り込んでいるほか、ユーロ圏との金利差は今後急激に縮小していく見通しである(図表 5)。エネルギー価格の下落などに伴う経常収支の黒字化や、対内直接投資の流入、EU からの補助金の流入(資本収支に計上)といったポーランドの国際収支の堅調さ(図表 6)を考慮しても、従来の見通しを PLN 安ユーロ高方向に修正する必要があるだろう。これまで PLN の 2023 年 12 月のユーロ相場の予想を 4.50 としてきたが、それを 4.74 に、その後もユーロ圏との金利差縮小のリスクを反映する形で PLN 安方向に修正している(図表 7)。

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)

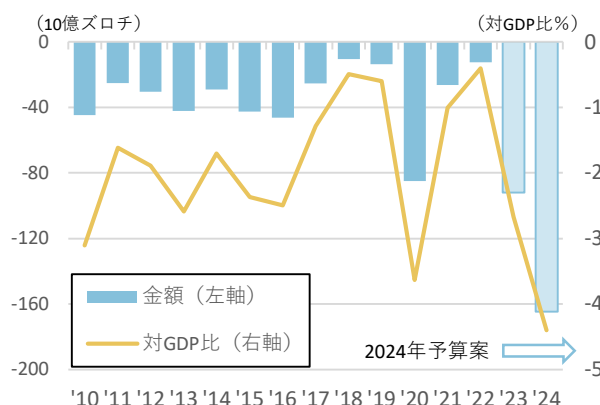


出所: ポーランド国立銀行、ポーランド統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

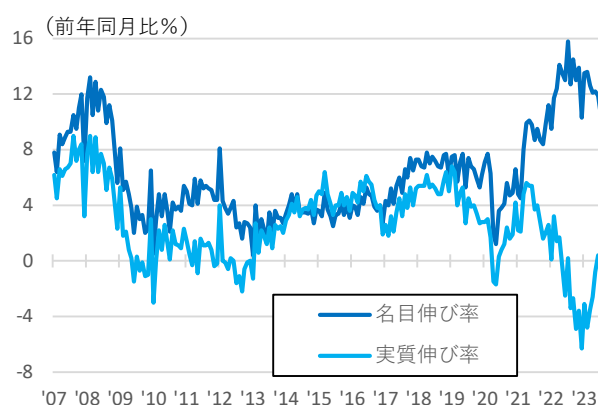
図表 2: 実質 GDP 実績とコロナ前のトレンド



出所: ポーランド統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

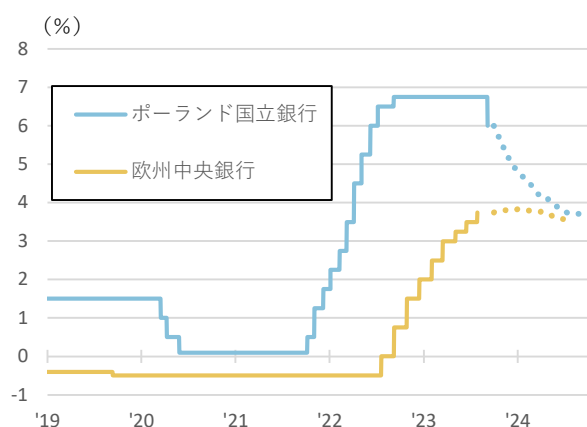
図表 3: 財政収支(年間)


出所: ポーランド財務省、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 賃金上昇率


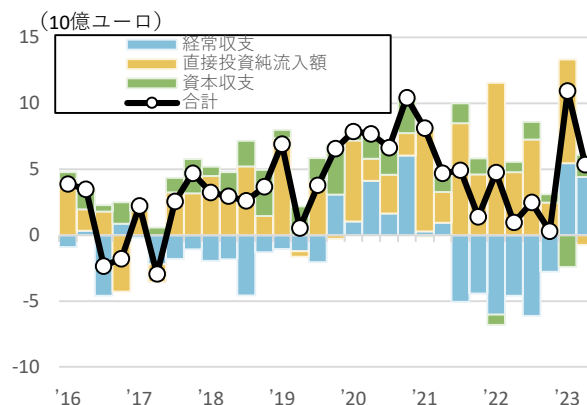
(注)実質化は消費者物価指数(CPI)の伸び率を使用した。

出所: ポーランド統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 5: ポーランド国立銀行、欧州中央銀行 政策金利の推移


(注)点線は市場の織り込み。それぞれ、3 か月 WIBAR 金利フォワード、EONIA スワップカーブから取得している。2023 年 9 月 7 日時点。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 6: 経常収支・直接投資・資本収支


出所: ポーランド国立銀行、ブルームバーグ、みずほ銀行

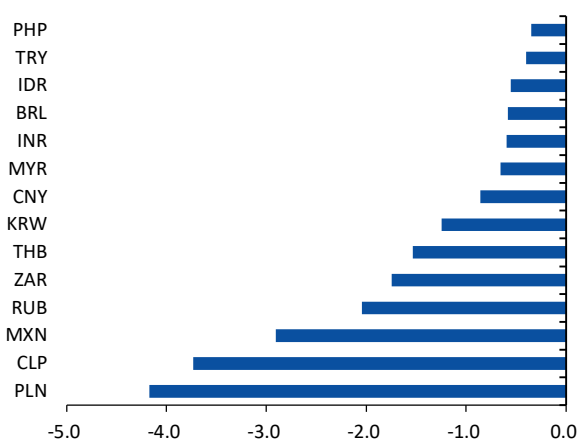
図表 7: ポーランド・ズロチの予測値

	9/7	2023	2024			
		9月	12月	3月	6月	9月
改定後	4.63	4.68	4.74	4.76	4.78	4.80
改定前		4.48	4.50	4.52	4.54	4.56

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

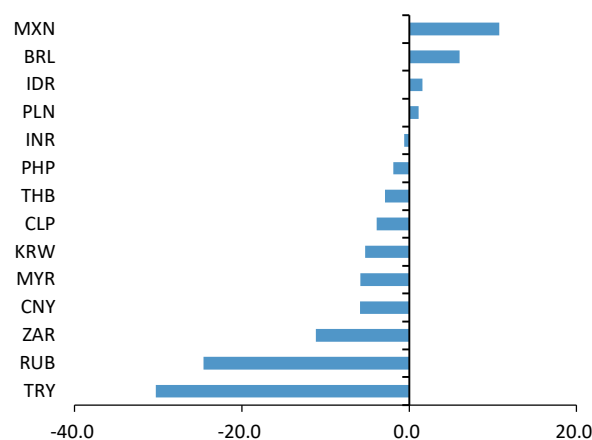
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



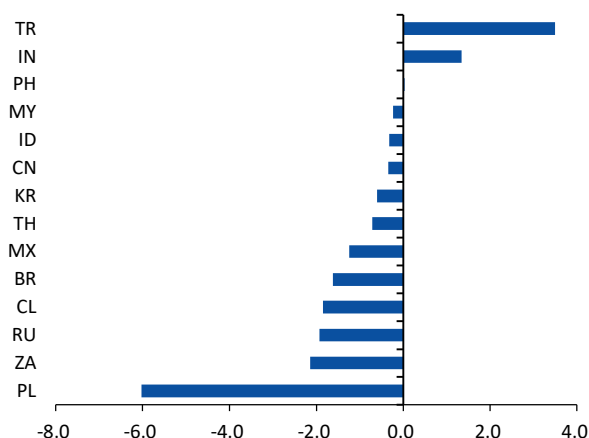
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



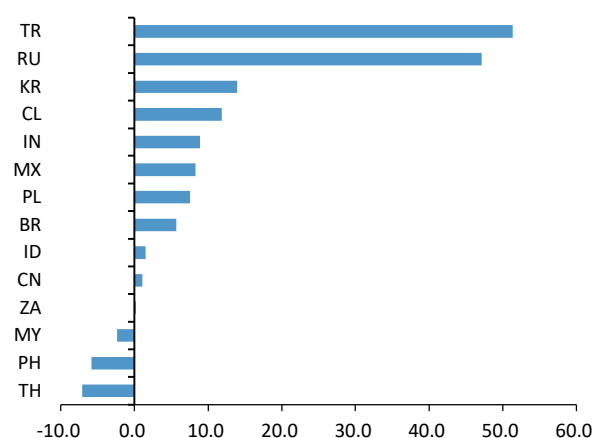
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



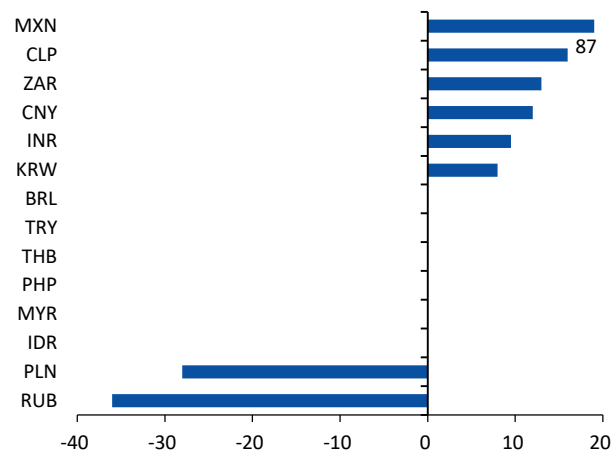
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

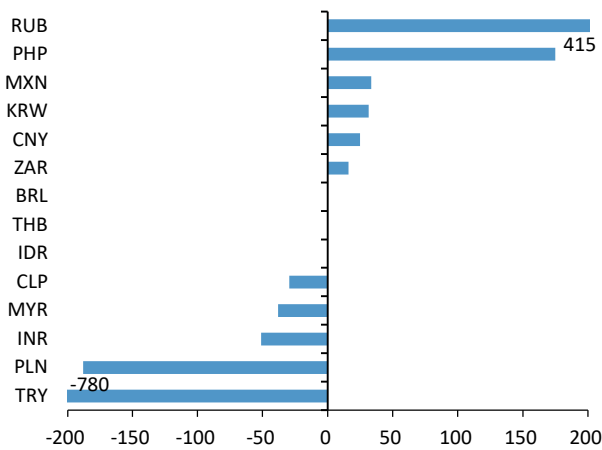
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

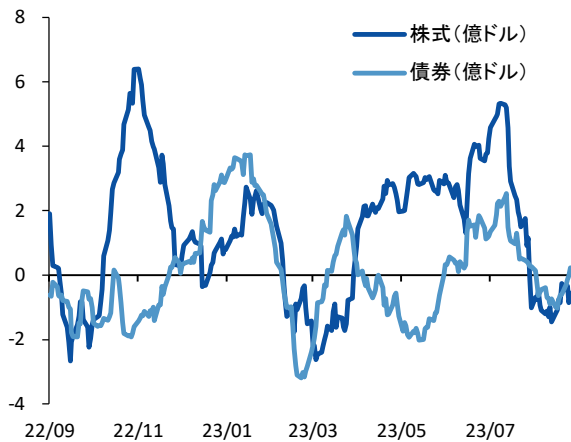


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

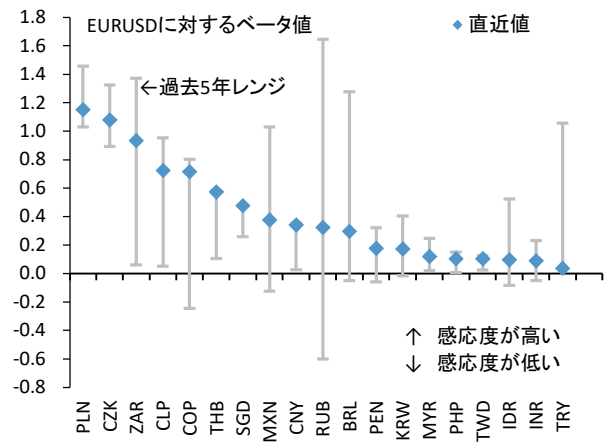
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



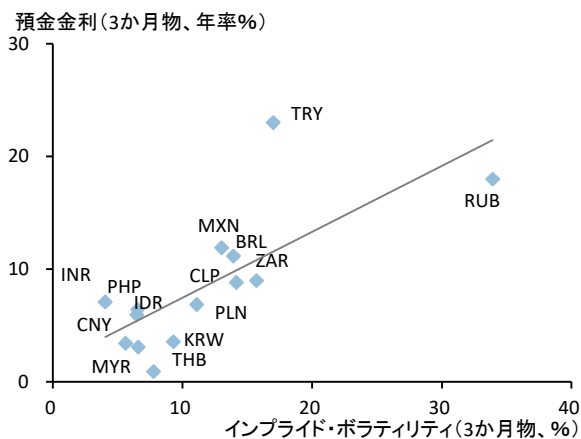
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



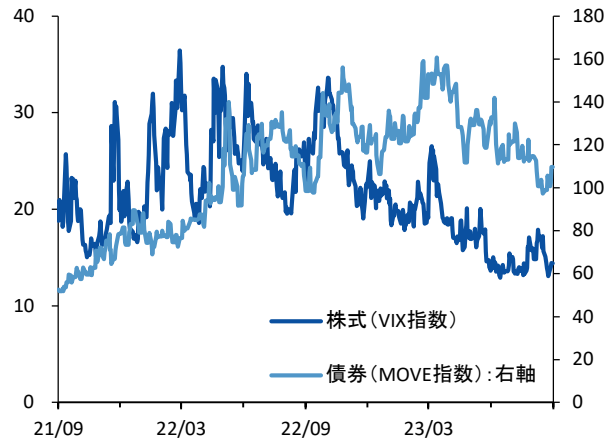
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



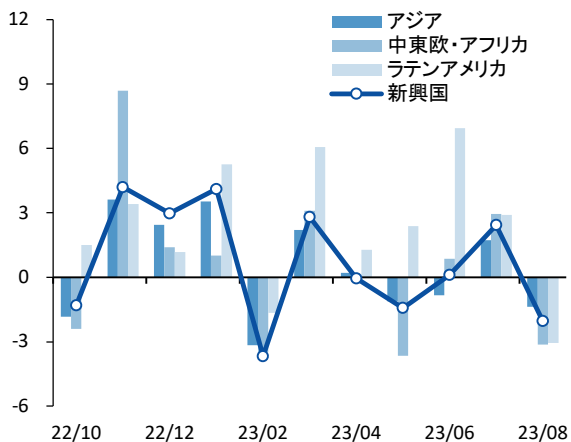
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



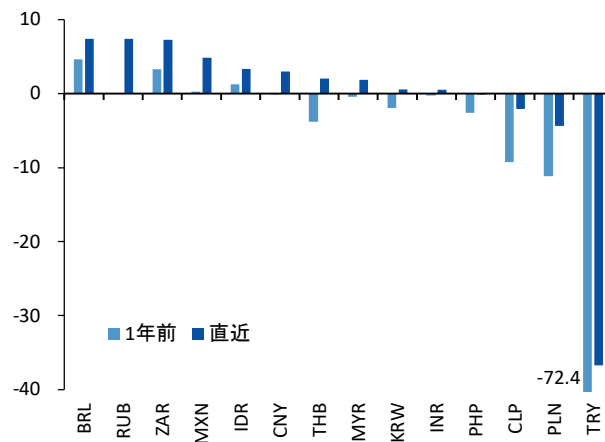
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
9月5日 (火)	韓国	GDP(前年比)	0.9%	0.9%	0.9%	--
5日 (火)	韓国	CPI(前年比)	2.9%	3.4%	2.3%	--
5日 (火)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	4.7%	5.3%	4.7%	--
5日 (火)	中国	Caixin中国PMIサービス業	53.5	51.8	54.1	--
5日 (火)	タイ	CPI(前年比)	0.6%	0.9%	0.4%	--
5日 (火)	シンガポール	小売売上高(前年比)	2.1%	1.1%	1.1%	1.2%
6日 (水)	台湾	CPI(前年比)	2.1%	2.5%	1.9%	--
7日 (木)	マレーシア	BNM翌日物政策金利	3.00%	3.00%	3.00%	--
7日 (木)	中国	貿易収支	\$73.90b	\$68.36b	\$80.60b	--
8日 (金)	韓国	国際収支:経常収支	--	--	\$5873.7m	--
8日 (金)	フィリピン	貿易収支	-\$4225m	--	-\$3918m	--
8日 (金)	台湾	貿易収支	\$6.15b	--	\$8.48b	--
9日 (土)	中国	CPI(前年比)	0.1%	--	-0.3%	--
9日 (土)	中国	PPI(前年比)	-2.8%	--	-4.4%	--
11日 (月)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	-2.2%	--
12日 (火)	インド	鉱工業生産(前年比)	--	--	3.7%	--
12日 (火)	インド	CPI(前年比)	--	--	7.4%	--
13-15日	インド	輸出(前年比)	--	--	-15.9%	--
13-15日	インド	輸入(前年比)	--	--	-17.0%	--
14日 (木)	インド	卸売物価(前年比)	--	--	-1.4%	--
15日 (金)	インドネシア	貿易収支	--	--	\$1310m	--
15日 (金)	中国	鉱工業生産(前年比)	4.1%	--	3.7%	--
15日 (金)	中国	小売売上高(前年比)	2.9%	--	2.5%	--
15日 (金)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	3.5%	--	3.4%	--
15日 (金)	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	--	--	2.1%	--
中東欧・アフリカ						
9月4日 (月)	トルコ	CPI(前年比)	55.9%	58.9%	47.8%	--
4日 (月)	トルコ	PPI 前年比	--	49.4%	44.5%	--
5日 (火)	南ア	GDP(前年比)	1.2%	1.6%	0.2%	--
7日 (木)	南ア	BER消費者信頼感	--	-16.0	-25	--
7日 (木)	南ア	経常収支	-173b	-161b	-66b	--
8日 (金)	ロシア	CPI(前年比)	5.1%	--	4.3%	--
8日 (金)	ロシア	GDP(前年比)	--	--	4.9%	--
11日 (月)	トルコ	経常収支	--	--	0.67b	--
11日 (月)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	--	--	0.6%	--
11日 (月)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	--	--	5.5%	--
15日 (金)	ロシア	主要金利	--	--	12.0%	--
ラテンアメリカ						
9月4日 (月)	メキシコ	総設備投資(季調前、前年比)	24.4%	28.8%	17.4%	--
5日 (火)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	-0.4%	-1.1%	0.3%	--
6日 (水)	ブラジル	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	0.2%	0.1%	-0.4%	--
11日 (月)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	--	--	3.7%	--
12日 (火)	ブラジル	IBGEインフレIPCA(前月比)	--	--	0.1%	--
15日 (金)	ブラジル	小売売上高(前年比)	--	--	1.3%	--

注: 2023 年 9 月 8 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2023年 1～8月（実績）	SPOT	2023年 9月	12月	2024年 3月	6月	9月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.6910 ～ 7.3175	7.3297	7.25	7.15	7.10	7.05	7.00
香港ドル	(HKD)	7.7920 ～ 7.8500	7.8392	7.84	7.84	7.83	7.81	7.78
インドルピー	(INR)	80.883 ～ 83.163	83.214	83.6	82.0	83.8	82.2	80.5
インドネシアルピア	(IDR)	14565 ～ 15643	15328	15500	15050	15280	14800	14600
韓国ウォン	(KRW)	1216.30 ～ 1343.42	1335.21	1330	1320	1310	1280	1250
マレーシアリングギ	(MYR)	4.2250 ～ 4.6918	4.6775	4.62	4.51	4.57	4.45	4.35
フィリピンペソ	(PHP)	53.628 ～ 56.976	56.795	56.6	54.8	55.0	53.8	53.5
シンガポールドル	(SGD)	1.3032 ～ 1.3625	1.3658	1.35	1.34	1.36	1.34	1.32
台湾ドル	(TWD)	29.608 ～ 32.012	32.029	31.7	31.5	31.2	30.6	30.0
タイバーツ	(THB)	32.57 ～ 35.74	35.64	35.0	33.8	33.9	32.7	32.5
ベトナムドン	(VND)	23415 ～ 24190	24069	24200	23700	24100	23600	23400
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	67.0415 ～ 102.2300	98.3424	96.0	98.0	100.0	102.0	104.0
南アフリカランド	(ZAR)	16.6950 ～ 19.9204	19.1663	19.0	18.8	19.0	19.2	19.4
トルコリラ	(TRY)	18.4339 ～ 27.3069	26.8443	26.0	24.0	22.0	24.0	26.0
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	4.6967 ～ 5.4798	4.9774	4.95	5.00	5.05	5.10	5.10
メキシコペソ	(MXN)	16.6262 ～ 19.5882	17.5973	17.0	17.8	18.2	18.5	18.7
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	18.793 ～ 20.201	20.079	20.14	20.56	20.42	20.28	20.14
香港ドル	(HKD)	16.295 ～ 18.780	18.785	18.62	18.75	18.52	18.31	18.12
インドルピー	(INR)	1.559 ～ 1.782	1.770	1.75	1.79	1.73	1.74	1.75
インドネシアルピア	(100IDR)	0.831 ～ 0.967	0.961	0.942	0.977	0.949	0.966	0.966
韓国ウォン	(100KRW)	9.915 ～ 11.194	11.028	10.98	11.14	11.07	11.17	11.28
マレーシアリングギ	(MYR)	29.106 ～ 31.698	31.526	31.60	32.59	31.73	32.13	32.41
フィリピンペソ	(PHP)	2.325 ～ 2.625	2.596	2.58	2.68	2.64	2.66	2.64
シンガポールドル	(SGD)	96.55 ～ 108.56	107.82	107.91	109.46	106.77	106.72	106.82
台湾ドル	(TWD)	4.205 ～ 4.663	4.600	4.61	4.67	4.65	4.67	4.70
タイバーツ	(THB)	3.770 ～ 4.184	4.132	4.17	4.35	4.28	4.37	4.34
ベトナムドン	(10000VND)	0.5430 ～ 0.6146	0.6119	0.60	0.62	0.60	0.61	0.60
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.422 ～ 1.948	1.498	1.52	1.50	1.45	1.40	1.36
南アフリカランド	(ZAR)	6.909 ～ 8.070	7.683	7.68	7.82	7.63	7.45	7.27
トルコリラ	(TRY)	5.108 ～ 7.482	5.479	5.62	6.13	6.59	5.96	5.42
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	23.723 ～ 30.405	29.574	29.49	29.40	28.71	28.04	27.65
メキシコペソ	(MXN)	6.651 ～ 8.778	8.368	8.59	8.26	7.97	7.73	7.54

注: 1. 実績の欄は 2023 年 8 月 31 日まで。SPOT は 9 月 8 日の 7 時 10 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。